ROTARY CLUB OF FUJIMI
富士見ロータリークラブ週報

第1995回　例会　28年　3月11日（金）

【卓話：西﨑哲章会員】

NO1986

2016－4－1発行

2015～2016年度

国際ロータリー会長K. R. “ラビ”ラビンドラン
RI会長テーマ“世界へのプレゼントになろう”

第2570地区　ガバナー高柳育行
地区テーマ“ロータリーの心を実践しよう”

世界へのプレゼントになろう

【会　長】竹内英明
【副会長】斉藤重治
【幹　事】羽石　隆
【副ＳＡＡ】萩原喜八郎

【点　鐘】　会長　竹内英明会員
【斉　唱】　ロータリーソング
「手に手つないで」
【黙　祷】　東日本大震災に対し哀悼の意

【会長の時間】　会長　竹内英明会員

今年度活動テーマ
「リスタート」

皆さんこんにちは
今日は3月11日であの東日本大震災からちょうど5年が経ちました。われわれの地域では直接の被災を受けてはいませんが、公共交通機関の停止や計画的停電、物流の分断などを経験し、その影響について経験しましたが、あれから5年とは月日の経つのは早いものです。これを機に防災について準備していきたいところです。以前、我々の希望の風奨学金について会長の時間でレポートしましたが、ロータリーの友にこの希望の風奨学金について詳細が載っていましたのでこれからご報告したいと思います。

はじめに

- **手元にある5年前の共同通信社発行の特別報道写真集『東日本大震災』を広げてみると、地震直後に大津波が岩手県宮古市を襲った瞬間の写真が目に飛び込んできた。そこには「2011年3月11日14時46分 マグニチュード9.0の巨大地震が発生 大津波が街、生活、命を奪い去り 人々の胸に消すことのできない傷痕をのこした」とあります。この写真集は、震災直後から4月11日までの1か月を記録したものでありますが、すでにこのころになると、復旧・復興、勇気・希望などの文字と写真が入り始めます。**

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の発足

- 当時を振り返ってみますと、2010-11年度のガバナー会は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地が7地区にわたることから、支援地区からの義援金をガバナー会に寄せていただけるようにお願いし、国内で支援可能な地区と国外2地区から寄せられた義援金の中から、見舞金として被災7地区に対し総額1億2,300万円を届けました。
- ガバナー会では、会規約8条委員会として「東日本大震災支援委員会(3年委員会)を設置し、先の見舞金を送金するとともに残りの義援金(約9億1,500万円)について「広域、多地区被災につきオールジャパンでの対応を」と「ロータリーらしい支援を」の2つを軸に、2011年6月初めに①「被災遺児への奨学金支援」と②「5 for 1 Clubプログラム」を決定し、次年度のガバナー会に引き継ぎをお願いしました。2011-12年度ガバナー会では、プログラムは引き継がないで義援金の残りは各地区に返却するとの方針が出されました。

「ロータリー希望の風奨学金」の概要

- 奨学生の条件:　東日本大震災で両親もしくは片親を失った「遺児」で大学(短大を含む)、専門学校に学ぶ者。
- 奨学金の給付:　入学から卒業まで毎月5万円を継続して給付し、返還を求めない。
- 申請から登録まで:
- ①被災各県高等学校。遺児家族。本人から、在籍高等学校の推薦とともに申請を行う。
- ②申請者が既に大学や専門学校に入学している場合は、被災遺児であることが確認できる書類と在学先の推薦状を添えて申請を行う。
- 奨学金給付開始:大学・専門学校入学と同時に、入学先の在学証明書を当協議会に送付してもらい、入学を確認後、奨学金の給付を開始する。
- 後のフォローー:　奨学生が進級するごとに在学証明書を送付してもらう。留年や停学、退学の報告を受けた時、または在学証明が更新できないときは給付を停止する。

「ロ–タリー希望の風奨学金」運営の状況

- 多くの皆さま方のご支援により、おかげさまで順調に推移しております。支援金は当初用意されていました4億2,962万円に加えて、プログラムが開始されてから2015年11月30日までの4年間に3億1,577万円が寄せられ、この期間に2億6,725万円が奨学金として使用されております。経費として4年間で106万円が費やされましたが、年額にすると26万5,000円(月額2万2,000円)でしかありません。経費のほとんどは通信費(電話料、切手代金など)です。プログラム発足以前には、プログラムの運営・維持に対して、かなりの経費が必要ではないかとの推測やご意見もいただきましたが、ロータリアンの心は、その家族にも理解され、全くの手づくりのプログラムとして運営されております。
- 現在、支援金は4億7,702万円が残されておりますが、今後6年間は維持できる状態です。18年先の終了時までの目標金額に対しては、2億8,200万円の不足となりますが、これまでの実績から見ますと今後5年間で達成できるのではないかと考えられます。皆さま方のさらなるご支援をお願いいたします。

今後の課題

- 私たちは、次代を担う青少年たちが進学の希望を断つことなく、未来に向けて夢を膨らませること、それが東北の真の復興に欠かせないとても大きな要素なのだということを訴え続けていくことが大切だと考えています。震災で夢をなくした奨学生の父親から、「長女が奨学金をいただいているのだが、次女が高校2年生になり、私も進学したいと言われた。この子にも奨学金はいただけるのでしょうか」との電話がありました。「大丈夫ですよ、お嬢さんには頑張るようにお伝えください」とお答えしました。
- 「ロータリー希望の風奨学金」は、震災当時9歳であった子どもたちが大学あるいは専門学校を卒業するまでの22年間にわたって、奨学金を支給する奉仕活動を継続するものであります。まだまだ、先の長い取り組みとなりますが、その間私たちの活動は同世代の横のつながりとともに、次世代への縦のつながりを築いていかなければなりません。委員は発足当初は2010-11年度ガバナーを中心とした13人でしたが、現在は趣旨に賛同されたさまざまな立場の人が最低L27人となっております。世代や役割を超えた、ロータリアンとしての絆を強め、このプログラムを遂行していきたいと思います。

【幹事報告】前幹事　柳田　政男会員

1) 例会変更の件
1.　当クラブ→
　3月18日（金）→
　　定款による例会取止め
　3月25日（金）→
　　3月27日（日）地区大会に振替
2) 次の書類を回覧します。
1. ソウル国際大会に参加される皆様へ
2. 熊谷市内５ＲＣ「交通安全啓発のぼり旗」
　　熊谷警察署長より感謝状授与
3. 中学生の主張大会文集
4. 第13回理事会報告掲示
5. 本日、14回理事会開催。

【委員長報告】

○環境委員会→委員長　柳田政男会員
今年度もすわ氷川の会と共催で、すわの森の湧水にホタルの幼虫を放流します。この件に関しては今日理事会が開催されますので、案として上程します。決定されしだいメール、ＦＡＸで会員の皆様には周知します。予定では4月2日に所沢幼稚園に訪問、3日11時に地元幼稚園を招いて放虫します。尚、会員は10時集合でお願いします。

○Ｒ財団委員会→委員長　酒本俊司会員
ポールソハリスソサエティに松本仙太郎、坂本元彦会員と2名頂き、今年度は8名のご寄付を頂きました。

○次年度会長　柳田政男会員
次年度委員会構成（案）を会員に配布いたしました
変更ある時は3月中にお申し付け下さい。

○ツインクラブ委員会→委員　島田敏郎会員
南砺ＲＣ会長　澤田喜朗様からお手紙を頂きましたのでご報告を致します。「次年度ガバナー排出クラブにより準備等で時間の余裕がなく大変失礼いたしました。又、こちらからの方から今後の有効クラブを前提として相談させて頂きます」とのお返事を頂きました

【ニコニコＢＯＸ】委員　吉原孝好会員

横田（正）、浅見、江沢、斉藤（英）、坂本会員
竹内、深谷会員
　東日本大震災から5年が経ちました。被災者並びにそのご家族に対し哀悼の意を表します。
浅見、江沢、奥田、桑原、斉藤（英）、酒本会員
坂本、島田、下山、竹内、長根、野﨑、萩原会員
平岡、深谷、増田、柳田、山口、山城、吉原会員
　西﨑さん、卓話宜しくお願い致します。
島田敏郎会員
　お心遣い有難うございました。
塩野芳雄会員
　横田正志様、紺授褒章受賞おめでとう。
石川、島田、西﨑、増田、吉原会員
　前回欠席しました。
石川　泉会員
　遅刻しました。

本日合計￥47000.

【出席報告】委員　増田　茂会員

う７		正会員数	免除会員	出席率	メイクアップ	修正出席率
３月１１日	会員数	４９名	１４名	－	－	－
	出席数	２７名	７名	８１％	名	％

【卓　話】　西崎哲章会員

富士見ロータリークラブに入会して半年ちょっと経ちました。これから約30分ほど時間をいただき、会社と私個人のことを皆さんに少しでもわかっていただけるようにお話していきます
それでは始めますが、私個人のことは少し後にしてまず**会社のことを少し説明したいと思います。**
富士見市の針ヶ谷、駅で言うとみずほ台と柳瀬川のちょうど間くらいの線路際にある協和工業株式会社の代表取締役社長をつとめさせていただいております。私が入社してからは今年の一月から六年目で、社長になってからはまだ三期目ですので皆さんから見ればまだまだ新米社長と言ったところです。仕事の内容はメインがガス管工事、皆さんと直接仕事をさせていただくことが少ないのですが、地場のガス会社様より仕事をいただきながら地域のインフラを構築しているという自負は持っております。それ以外にも、公共工事、公共下水工事や企業様の建物自体や建物にある設備や給排水管の改修などをさせていただいています。また、個人宅のリフォームにとどまらず、居宅介護支援事業所すてっぷという事業所も運営させていただいております。一言で言うと、総合設備工事会社とでも言えばいいのでしょうか。先ほど、入社して六年目と申し上げましたが、私はもともと工事業界の人間ではありません。会社は、私の父と叔父が昭和43年、1968年に立ち上げ、今年で48期目になっております。あと二年で50年の節目を迎えようとしています。私は次男で、次男というからには兄の長男もおります。兄は大学卒業後に協和工業に入社し、私は大学卒業後に自分の好きなコンピュータソフト業界にそれぞれ入社しました。皆さんもおわかりだと思いますが、協和工業という会社は私の中では兄が継ぐと思っていましたので私は私の道を進んでいた次第です。ところが、忘れもしない約11年前、仕事中に当時会社の千葉事業所で働いていた兄が倒れたという連絡がありました。病名は脳梗塞、幸い大事にはいたらず、少し落ち着いた後にリハビリを開始したのですが、リハビリ中に二回目の脳梗塞を発症、結果、右半身に麻痺が残っていまい、多少不自由はありますが、現在はなんとか日常生活は送れています。就職直後から私は難しいことはわからないなりにも会社は兄が継ぐと思っていましたので、当然兄が倒れたことによって会社の心配をしました。自分がどうこうではなく、後継ぎがいなくなったことによってどうするのかと父である当時の社長に確認したところ、お前は心配しなくてもいい、と。今思えば

いろいろと思うところはありますが、当時の私はそれを素直に受け取ってしまい、後継ぎ問題は私には関係ないのだとそのままサラリーマン生活を送っていました。ただ、その出来事が起きてから五年、今からだと約六年以上前になるでしょうか。父である社長から、お前どうするんだ？と聞かれ、私の中ではその問題は解決していると思っていたのでまさに晴天の霹靂といった心境でした。後継者問題は5年前から何も進んでいなかったのだとその時はじめて理解しました。その当時、今でも会社におりますが、総務のアドバイザー的な存在のかたに飲みに誘われ、後を継いではどうか？という話をいただきました。その話は、その前に父にどうするんだと聞かれてから半年くらい経っていて、私の中では後を継ぐという気持ちはある程度固まっていたので、すんなりと受け入れられていました。それからまもなく前職であるコンピュータソフト会社を辞め、協和工業に入社した次第です。話は変わりますが、私の母は平成25年の11月に亡くなりました。私が社長に就任してからちょうど半月くらい経った時でした。やはり親が経営する会社に入ったせいか、私が協和工業に入って、すごくストレスを感じていたり、いろいろと葛藤を抱えていたり、そういうのをどう感じたのか母は知っていたようで、母が私の女房と二人きりでよく昼食を一緒に食べていた時に私のことを心配していると女房経由で聞いていたこともあり、とりあえず母に代替わりした姿を見せられたのはとても良かったと思っています。とは言うものの、その時は全く予想だにしていなかったことなので、結果論です。ただ、母は私が社長になったことをとても喜んでくれていたようです。ありがたいことに会社は順調で今のところ成績も好調です。それも先代社長である父が築いてきたものが大きくも崩れない山であることが一番の理由です。これからも毎年好調だと言えるように努力して飛躍させていくために結果を出していきたいと思います。

さて、会社の話はいったんこれくらいにして、これからは**私個人と家族のことを話していきます。**

私は昭和45年3月17日に父がたまたまその時仕事をしていた場所である愛知県名古屋市で三人兄妹の次男として生まれました。現在は45歳になります。あと1週間ほどで46歳ですね。先ほどお話したように、上には一つ上の兄がおり、他には二つ下の妹がおります。両親は父母ともに熊本県の出身、父は玉名というところ、母は三角というところになります。小さい頃に生まれた愛知県名古屋市から神奈川県相模原市に同じく父の仕事の関係で移り住み、以降小学4年生の途中まで住んでおりました。その後、今の場所に近いところで仕事をするにあたり、埼玉県富士見市のセイコーモータースクールの近くの借家に移り住むことになり今はなき上沢小学校に転校してまいりました。

中学生になり、富士見台中に入りました。中学で将来の仕事となるパーソナルコンピュータ、いわゆるパソコンと初めて出会いました。パソコンと言えば、当時はほとんど所有している人がいないくらい高価な商品で、私も中学になってできた友だちが所有していたので、友だちの家に遊びにいってはパソコン雑誌に載っているゲームのプログラムを一生懸命打ち込み、遊んでいたことを覚えています。この遊んだりソフトを作ったりした経験が、将来のやりたいことになっていったことは間違いありません。ちなみに、部活は水泳部に入り、一生懸命部活動にも励んでいたことを覚えています。勉強もそこそこに出来ていたので高校も希望の高校へと思っていましたが、思った以上に自分の知識量が足りておらず、志望校に入れず、結果坂戸高校に入りました。

高校に入り、部活は引き続き水泳をやりたいと思ったのですが、坂戸高校には水泳部どころかプールもなかったのです。当たり前にどの高校にもあると思っていただけにショックでした。高校に入っても水泳は続けたいと思ってた私は、出鼻をくじかれたような気持ちになり、ただ何か部活に入らないとと思って、高校に入って仲良くなった友だちと同じ部活であったハンドボール部に入った次第です。しかし、何も考えず部活に入る。これが間違いでした。私は手が小さく、ハンドボールが手のひらにおさまらなかったのです。握力云々というより手が小さいというのは、ハンドボールをするには結構致命的でした。結果、友だちなどとも差が開いてきて、部活がつまらなくなり結果的に1年の途中でやめてしまいました。やめてからの高校生活は学校と家との往復になり、次第に内向的な性格になっていっていたような気がします。先ほど話した中学の時にはまったパソコンですが、実は高校入学の時に入学祝いとして買ってもらっていました。部活をやめた私は、学校が終わった後はそそくさと家に帰り、パソコンと向き合っていました。高校に入ってからは急に学業に対してやる気が下がり、それに比例して成績も下がってきていました。二年生の時には人生で後にも先にもない十段階評価ではじめて「１」という数字を目にしました。確か教科は物理だったかと思います。赤点というものもここで初めて経験しました。さすがに自分でもマズいと思い、物理は猛勉強した記憶があります。二年生が終わる最終的な成績は五段階評価で「３」だったので、まあまあやったかなと思いました。そんなこんなで高校生活を送り、さあ大学受験です。その当時塾にはいってましたが、行っていただけで成績はそれはもうお粗末なものでした。当然受かるわけもなく、浪人が確定しました。ただ、神様は私を見捨てずにいてくれたようで、こんな私でも唯一一校だけ大学に合格することができました。一応、志望とかはありましたが、正直この際受かっただけでもある意味奇跡だと思っていたので、喜んで合格した大学に入学しました。

大学に入る時には、将来何をやりたいのかというのは自分でもわからなかったこともあり、とりあえず経済学部に入りました。経済学の勉強は当時は非常にわからない上に何に役立つのか疑問だったせいでろくに勉強もしなかったことを今でも覚えています。ただ、実は今の立場になるとやっとけばよかったなぁと後悔することひとしおです。幸いにも大学では友だちにも恵まれ、楽しい大学生活を送りました。高校からの流れで、ゼミはたまたま大学にあったコンピュータソフト関連のゼミに入り、さらにプログラミングの勉強をやりました。その時はCOBOLという言語とFORTRANという言語を学んだ記憶があります。言語の仕組みを覚えてやりたいことをプログラミングすることで実現できる、やはり就職するならこの業界だと大学の専門課程に入ったころは自分の就職したい業界が見え始めてきていました。

私が大学を卒業したのは平成五年の３月、バブルがはじけて他の業界では就職難がおきている最中だったというのは後で知りました。というのも、その時は同期が100人もおり、私が入社した会社はそれを感じさせないくらい人が多かったからです。ただ、私が入社した年も実は採用人数自体は右肩下がりで、その２年前は300人くらい入ったというのは配属された後に知ったことでした。大学卒業し、協和工業に入るまでの約18年間はその会社一筋で、もちろん一人でというわけではありませんが、開発したソフトの一例を簡単に紹介します。JRの新幹線のダイヤシステム、大蔵省の歳入歳出を管理するシステム、住宅金融支援機構、昔でいう住宅金融公庫の新債権管理システムおよびその新システムへのデータ移行作業、みずほ証券の顧客管理システム、電子レセプトの統計処理システムと公から民まで幅広く携わった記憶を今でも覚えています。システムを作る人間というのは、コミュニケーションがとれない人が多いとか、無口とかがイメージとして先行している部分がありますが、一部のそういう人は確かにいますが実はそうでなく、お客様ときちんと会話ができる人は多いです。なぜかというと、お客様からきちんと余すこと無くニーズが吸い上げられていないといいシステムというのはできません。後でこんな機能があったらよかったのにとか、ここはこう操作できたらもっと使いやすかったとか、など不平不満がでないように早くに確認に確認を重ねて作り上げていくという実に人に依存する部分が多い仕事だからです。それをただ、プログラムが実現しているだけだからです。だからというわけではありませんが、多分私もちゃんとコミュニケーションがとれる人間だと思っています。決して変わり者ではありませんので。。。**次に女房と子供のことを簡単にお話します。**女房は「金のわらじを履いてでも探せ」と言われた１歳上の年上女房です。音大出で、私みたいなデジタル能の人間にはない芸術的な要素をたくさん持っていました。性格というか好みは全くの逆で、ありえないと思われるかもしれませんが、例えば食べ物などは私が嫌いなものを買って帰ると喜ぶといった感じで、食べ物で取り合いになったことは結婚して約17年になりますが、今の一度もありません。よく価値観が一緒の人と結婚したいとか話も聞きますが、うちの夫婦にはそれがありません。合うことの方が珍しく、たまに合うとそれがある意味新鮮でいいかなと思います。

子供は男の子が二人おります。一人は高1、もう一人が中2です。人に言うとたいてい驚かれますが、年は違うものの、それぞれ生まれた日が、上の子は3月11日で東日本大震災の日、下の子供は1月17日で阪神淡路大震災の日なんです。二人ともそんな日に生まれたなんて何か運命的なものがあるのか、はたまたただの偶然か、神のみぞ知るといったとこでしょうか。

今になって思うことですが、親は子供がやりたいことを応援することはあっても、
親がやらせたいことを押し付けてはいけないんだなと。なので協和工業の後継ぎにとかは今は全く考えていません。私の目標は協和工業は誰が継いでもいいと思える会社に育てることなので。

最後に私のことをもう少しお話します。協和工業に入ってから始めたゴルフが今は趣味といったら趣味です。なのでゴルフも始めてから6年目に入ります。大したことないので恥ずかしくて言いにくいですが、今のところのベストは82で、平均は90台半ばくらいをいったりきたりです。もし、これくらいのスコアでよければお誘いいただければできるだけ日程調整させていただきます。あと、今の私の癒やしは愛犬です。雑種で美実という名前です。今はミックスなんてステキな言い方があるみたいですが、あくまでも雑種です。最近は散歩できる時間もなかなかとれないのですが、休みの日はできるだけ一緒に散歩したりしています。実は私小学校の低学年の時に犬に太ももをガブっといかれたことがあり、それ以来犬がすごく苦手でした。嫌いではなく怖かったんです。チワワやヨークシャテリア、トイプードルなんて小さくて可愛いですよね。あんな今では可愛いと普通に思える犬もその時はダメで、それを美実が治してくれたのです。やはりそれで世界も広がりましたから。今では何十キロもある犬でも全然平気です。好きな食べ物は子供みたいですがカレーが大好きです。苦手な食べ物は乳製品、チーズとかちょっと厳しいです。なのでお手柔らかにお願いします。お酒は強いとは口が避けても言えないくらい弱いです。ただ、全くの下戸ではありません。自分のペースで飲んでるうちは大丈夫です。訓練で強くなると言われてますが、なんとなくダメなものはダメなような気がしています。でも、飲む場とかは大好きです

飲めないヤツはダメとか言わないで誘って下さい。

よろしくお願いします。

それでは、そろそろ時間もよろしいようなので、この辺で私の初めての自己紹介という卓話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。これからロータリーで頑張っていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【点鐘】会長　竹内英明会員

例会日　毎週金曜日
時　間　12:30～13:30
事務所　〒354－0022
富士見市山室2－10－10　島田ビル201号
電　話　049－251－6596　FAX049－252－3848
例会場　島田ビル1F
Eメール　fujimi-rc@nifty.com

会報・IT委員会　週報担当：長根章浩
委員長：長根章浩　副委員長：小椋博之
委員：楠　邦治　松本伸一郎
吉原孝好　浅見隆広